

個人住民税を巡る諸課題（主要論点メモ）

主な論点	メ モ
<ul style="list-style-type: none"> ● 個人住民税の性格・役割 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 個人住民税には、地域社会において必要な福祉、教育、道路整備などのための「地域社会の会費」としての性格（負担分任の性格）があり、その性格と密接な関連を有する「応益原則」がある。さらに、税収面でみれば、税源の偏在性が少なく、税収の安定性を備えている。 個人住民税については、このような性格などを踏まえつつ、充実確保を図っていくべきではないか。 ○ 税源移譲にあたっては、所得税と個人住民税の役割分担のさらなる明確化が課題となり、個人住民税については、応益性などが求められることを踏まえた税率のフラット化が基本となる。今後とも、引き続き個人住民税については応益性の明確化が求められるのではないか。
<ul style="list-style-type: none"> ● 所得割 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 所得割の諸控除については、個人住民税の負担分任の性格や応益原則に基づき見直しを図り、課税ベースの拡大に努めるべきではないか。 ○ 特に、生命保険料控除、損害保険料控除など政策誘導的な色彩の強い控除については、地方分権の観点からも、地方税である個人住民税においては極力整理すべきではないか。

主な論点	メモ
● 均等割	○ 均等割の税率は、これまでの国民所得等の推移と比較すると低い水準にとどまっているが、その税率を適正な水準まで引き上げるべきではないか。
● その他	○ 高齢者の納付の便宜や徴収率の向上を図るため、公的年金等からの特別徴収を行うべきではないか。